

令和5年4月6日

## 「また始まった」が言える喜び

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

本日、浮辺小学校との統合後、初の令和5年度霜出小学校新任式、始業式、入学式を行いました。子どもたちは瞳を輝かせ、やる気満々で学校生活をスタートさせました。校長として「また新たな年度が始まった。」と言える喜びを噛みしめています。同時に子どもたち同様、心機一転、新たな気持ちで新年度を迎えることができました。

昨年度までの課題や反省点を生かしながら、学力向上や心の教育の推進、体力・気力の向上等に、研修意欲旺盛な教職員と共に「想像と創造」を大切にしながら取り組んで参ります。また、学校、家庭、地域の持つそれぞれの教育機能を最大限に発揮し合い、確かな信頼関係と連携のもと「子どもたちのために」を合言葉に、全ての教育活動の充実を期したいと思います。

教児共に日本一楽しいと思える学校、そして、教児共に育つ教育「楽校共育」の創造に向けて、自分にできることは何かを常に自問自答しながら取り組んでいきたいと思えます。

令和5年4月7日

## 想像と創造

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

現在の自分を過去や未来から眺めてみると新たな発見があるかも知れません。現在の姿をいろんな視点から見つめ直し、新たな何かを創造していく能力は、人間固有の能力なのかもしれません。人工知能（AI）には負けない各個人の個性や特性なのだと思います。

今現在、10年前の自分にどんな言葉をかけてあげられますか。逆に10年後の自分からなんと言われたいですか。過去の自分からは、「よくがんばったね。あのときの努力が報われたね。」と優しく声をかけてもらいたいし、未来の自分からも、「今の頑張りのおかげで将来はとても幸せだよ。」と、励ましてもらいたいですね。

先行き不透明なウクライナ情勢、コロナ下ですが、こんな時代だからこそ将来に夢や希望を抱き、想像と創造という人間らしい能力を大切にしていきたいものです。自分勝手な自己中心的な幸せの追求、生き方ではなく、自他共によりよく生きる道を想像し、創造していきたいものです。

令和5年4月10日

## こいのぼり掲揚に想う親の愛

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

コロナ禍の影響で中止になっていたこいのぼり掲揚が2年ぶりに復活しました。校門前や校庭にこいのぼりが気持ちよさそうに泳いでいます。霜出小PTA活動の一環として、こいのぼり掲揚作業が去る4月8日に行われました。

時折、強い風が吹き抜ける中での作業となりましたが、一人ひとりが安全に気を配りながら、手際よく作業を行っていました。取り付け作業が終わり、掲揚の際には、一斉にこいのぼりが勢いよく高く舞い、澄みきった青空の中を気持ちよさそうに泳ぎ始めました。参加者からは、歓声が沸き上がりました。

掲揚されたこいのぼりを見ながら、保護者の子どもを想う親の愛情を改めて実感しました。子どもたちにもきっと親心が届くはずです。健やかにのびのびと成長してほしいものです。活動に参加された皆さん、誠にありがとうございました。登校してきた子どもたちもとても喜んでいました。

コロナ前の伝統的行事の活動再開をととても嬉しく思いました。

令和5年4月12日

## 当たり前の行為に感動

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

統合後初の霜出小学校PTA総会を開催しました。私のつたない学校長あいさつを真剣に聞いてくださる保護者の方々のお姿を拝見しました。とても嬉しくなると同時に自身の職責の重さを強く感じました。

他者の話をしっかりと聴くことは大切なことです。しかし、難しいことでもあります。ついつい違うことを考えたり、思ったりするからです。話をしっかりと聴くという当たり前のことを、当たり前に実践している保護者の方々に感動しました。

このような行為を子どもたちに伝えるのも学校の大切な役目です。子どもたちには親の後ろ姿をよく見て、素晴らしい善行を学んでほしいと思います。

学校、家庭、地域との三者連携は、時代が変わっても重要で必要不可欠なものです。赴任して以来、保護者や地域の方々の子どもたちへの深い愛情を強く感じます。それぞれの教育機能を今後も発揮し合い、子どもたち一人ひとりの健全育成につなげていきたいと決意を新たにしました。

令和5年4月18日

## 愛する人を幸せに

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

ウクライナ情勢等，先行き不透明な現状が続いています。しかし，将来への夢や希望を持ち続け，明るく生活していきたいものです。また，他者への思いやりを大切にし，差別や偏見をなくしていきたいものです。

先哲は「愛情には一つの法則しかない。それは，愛する人を幸せにすることである。」と説きました。とてもシンプルですが，含蓄のある言葉です。同時に難しい課題でもあります。それでも，他者を幸せにする言動に心がけ，まずは，身近な人から幸せにしていきたいものです。

学校における愛する人とは，一人ひとりの子どもたちです。そして，子どもたちを教え導く教職員一人ひとりです。互いに深く寄り添いながら，幸せの実現を図っていきたくと思います。常に子どもファースト，子どもが主語になる教育活動を，愛すべき教職員と共に展開していきたいと思っています。

登校指導時，元気で，笑顔満開の子どもたちの様子を眺めながら，ふと，そんなことを考えました。

令和5年4月27日

## 嬉しいお手紙

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

転任して初めて3年生の女兒からお手紙をもらいました。朝の登校指導時に本人ではなくて，女兒のお姉さんから手渡されました。何が書かれているのかとても楽しみでした。

登校指導を終え，急いで校長室で手紙を読みました。詳細については割愛しますが「いつも学校を見守ってくれてありがとうございます。霜出小に来たときから絶好調でしたね。校長先生はおもしろいです。全児童のことをよろしくお願いします。名前を早く覚えてくださいね。」と，丁寧な文字で書かれていました。

とても嬉しくなりました。心がスッキリと晴れました。これからも頑張ろうと勇気ももらいました。児童一人ひとりの顔と名前が一致するように早く覚えようと思いました。

ちょっとした感謝の言葉で，人は元気づけられるものだと改めて実感しました。感謝の言葉は身近な人には疎かになりがちです。感謝の想いを素直に伝えることができる人間になりたいと手紙を読みながら反省もしました。